



ケイヨウ博物館

博物館に
行ってみよう!

もっと知りたい! 千葉のあもしろ 博物館

第11回

小江戸とっぴ館(旧・商い資料館)(大多喜町)



インタビュー
“中の人”に
聞いてみました

大多喜城城下町に栄えた大多喜商人の 商いと暮らしをテーマにした資料館

小江戸とりっぶ館(旧・商い資料館。2025年より名称変更)は、大多喜城の城下町に栄えた大多喜商人の商いと、城下町の暮らしをテーマにした資料館です。

大多喜城城下町は、現在も歴史的な外観を残す20数軒の商家が並び、“房総の小江戸”と呼ばれております。小江戸とりっぶ館は、そんな古い町並みの中にある土蔵造りの建物を改修し、資料館として使用しています。

大多喜町は、もともと徳川家康の最重要側近であった本多忠勝^{ほんだ ただかつ}を祖とする本多家の城下町であり、この地域の政治・経済の中心地でした。さらに陸路の要衝として江戸への物資輸送の拠点であったということもあり、多くの商家が立ち並んでいました。幸い戦争でも被害が少なく、これが古い町並みを残すことにもつながりました。

この美しい町並みを見ることを楽しみに大多喜町を訪れる方、そして徳川幕府250年の天下の基礎を築いた戦国武将である本多忠勝をきっかけに歴史にご興味を持たれた方も、お城を訪問した際には資料館を訪れることが多いようです。

そのため、商いの事だけでなく歴史にくわしく、城下町や本多忠勝のことについても興味深くご質問される方もたくさんいらっしゃいます。展示物だけでなく、こうした歴史ファンの方々にもご満足いただけるよう、当館では「町並み案内人」を育成し、「歴史談議」にもお応えできるよう配慮しています(「町並み案内人」は予約制です)。

2025年、本資料館はさらに皆さんに楽しんでいただける拠点を目指し、運営を地域貢献に熱心な民間企業(大多喜ガス)にお願いし、新しい発想を取り入れて、「小江戸とりっぶ館」として新たな営業を開始しました。

素晴らしい歴史的な町並みを楽しむ方はもちろん、戦国武将本多忠勝にご興味のある方々もぜひお立ち寄りいただけましたら幸いです。



大多喜町役場
商工観光課 商工労政係
係長 苅米 健太さん

小江戸とりっぶ館 (旧・商い資料館)とは？

房総の小江戸、大多喜の古い商家の町並みを残す一角にある「商いと城下町の暮らし」をテーマに2001年に開館した資料館です。

立派な土蔵造りの建物に入ると、明治、大正の頃の商家の帳場があり、周りには多くの「商売道具」が展示されています。2階には明治、大正、昭和にかけての生活道具も多数展示されています。



そろばん 算盤・十露盤

入り口を入った正面、帳場の上に置かれた巨大な算盤。これは十露盤という昔の算盤です。上段に2個、下段に5個の珠が配置されています。脇の部分から板を引き出して墨でメモを書くこともできます。



インタビュー
“中の人”に
聞いてみました

商いと暮らしの道具が並ぶ 発見一杯の資料館

1階は、昔の商家の再現をしながら、商いに使われた明治以降の道具が展示されています。2階は、昔の暮らしの生活道具や遊び道具が展示されています。また、表の土蔵造りの部屋を抜けると、奥の間に設けられ、日本庭園（陣座公園）を眺めながら、お茶や和菓子を楽しめる喫茶コーナーとなっています。

多くの展示物は、大多喜の古い商家さんからの寄贈物やお借りしている品々です。

帳場に置かれた巨大な算盤をよく観察すると、三つの計算（石高や面積など）が同時にできて、メモ機能まで備えていたり、身近な品々にも面白い事実が隠されていたりします。1階に展示されている大きな臼（と思っていた品物）もその1つ。先日寄贈していただいた方がこの資料館にいらっしゃって、その正体が実は脱穀機であったことが判明したり、先人の知恵や工夫に驚かされます。



大多喜町観光協会
事務局長 高橋 謙周さん



「竹の盃（城主 大河内氏夫人より寄贈）」1階のガラスケースの中に展示されている金色に輝く杯。竹の盃に金が施されています。本多家のあと、この地を治めた大河内松平家の夫人から、商家の1つ、尾高家に贈られたもの。箱書きには明治10年と書かれています。

資料館 1階・2階

資料館の1階と2階は、城下町として栄えた大多喜の商いの歴史や文化を紹介する展示コーナーとなっていて、まるで昔の町にタイムトリップした気分での文化に触れることができます。

資料館の奥の奥には、大多喜町特産の「竹」を使った竹灯籠や、ちぎり絵、金魚のお守りなど、地域の文化に触れながら「たのしい」作品を作ることができる「工芸体験コーナー」と、地域の和菓子や旬の食材とともに、お好みの飲み物で大多喜町の「おいしい」を味わうことができる「きんぎょ茶や」があります。

建物の外、横から奥へ入っていくと、日本庭園（陣座公園）もあり、見応えのある資料館になっています。



▲両替屋で使用されていた「両替天秤」「分銅」「銭皿」。銀行の地図記号は分銅の形が元になっています。



▲小判、銀貨などの古銭。二分判金や一朱銀を計量するための道具「金枰（かねます）」も展示されています。



▲資料館の2階には、昔の暮らしの生活道具や遊び道具が展示されていて、懐かしい玩具が展示されています。



▲建物の奥には日本庭園（陣座公園）があり、とても落ち着いた場所になっています。

●問い合わせ／小江戸とりっぷ館（旧・商い資料館）

夷隅郡大多喜町久保153-1
TEL.0470-82-6111

すごい!このホンモノを見逃すな!

かずさ そでだこ
上総袖風



雰囲気満点の木製の階段を上がって2階の展示室へ行くと、小さな窓の付いた部屋に江戸末期の頃から使われてきた庶民の生活道具がたくさん展示されています。

その中で圧倒的に目立っているのがこの巨大な赤い風。千葉県に古くから伝わる上総袖風です。千葉県の民芸品になっています。

江戸時代後期の頃、九十九里の海にはイワシが押し寄せて、連日、漁港の浜は大漁に湧きかえていました。この大漁に網元(漁網や漁船などの漁具を所有し、漁師を雇って漁業を営む経営者)は万祝という祝の

着物を作って漁師に着せて、その姿で神社にお参りにでかけ、大漁を感謝する風習がありました。

このめでたい万祝を原型に、大きな風に仕立てたのがこの上総袖風で、千葉県独特の風習です。

2~4メートルのものが多く、素材にはその地で取れる矢竹が使用されています。大きな商家の多かったここ大多喜でもこの上総袖風が大切にされ、特に初節句にはこの風を上げる風習があり、風がなければ風が上がるまで何日でも風あげに熱中するほどであったと伝えられています。

イベントに行ってみよう!

このようなイベントもやっています

小江戸とっぴ館では来館者にご参加いただけるさまざまな体験講座も実施しています。特に人気なのが「竹灯籠作り」と「ちぎり絵“紡ぎ”」です。年に1度行われる「お城まつり」の時にはこの竹灯籠が商家の表などに飾られ、その幻想的な美しい風景も皆さんの大きな楽しみになっています。



大多喜ガス株式会社
事業開発部 地域共創グループ
マネージャー 新井 賢太郎さん



▲「竹灯籠作り」好きな模様を組み合わせ、自分だけの灯りを手作りできます。



▲「ちぎり絵“紡ぎ”」和紙の柔らかな風合いを楽しみ、ほっこり優しい時間を紡ぎます。

《もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館》今月の誌上クイズ

※答えは、京葉銀行のホームページにある、「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」の第11回をご覧ください。



今回誌面でご紹介した、大多喜城の城主、本多忠勝が仕えた戦国の武将は誰でしょうか。
次の3つの中から正解を1つ選んでください。

- ① 織田信長
- ② 豊臣秀吉
- ③ 徳川家康

取材協力・撮影協力・写真提供／小江戸とっぴ館(旧・商い資料館)

プラスαで、未来をともし。

京葉銀行

ホームページでもご覧いただけます。

京葉銀行 情報誌

検索

LINE、Xからも「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」を配信しています。

LINE 公式アカウント

@keiyobk_official



X 公式アカウント

@keiyobkofficial



正解は→③ 徳川家康

2025.11
(次回発行予定/
2025年12月19日)